

魅せるお弁当

a2200826 橋本 真理

背景と目的

私は会津短大への入学をきっかけに漆に興味を持ち、今日に至るまで漆や漆器作りについて学んできた。私自身2年間を通して漆に携わり、漆だからこそ出せる艶のある質感や、手触り、温かみにとても魅力を感じた。しかし、漆は昔からの伝統工芸であるにも関わらず、私自身がそうであったように今の若い世代にはそこまで馴染み深いものではないと言える。

その要因として、現代社会に生きる人々は、消費型経済の影響から1つのものを長く使い続けるという考え方が薄れてきていることが挙げられ、身の回りで日常的に漆が用いられているものが数少なくなったということが考えられるのではないだろうか。

そこで、私達が普段当たり前前に使う”お弁当箱”を卒業制作のテーマとし、漆の良さをより身近で感じ、親しみやすいと思えるものを制作したいと考えた。

また、今の世の中では経済不況の影響もあり、お昼にコンビニ弁当や外食ではなく、お弁当箱を持参する人が増えてきている。そういった点からも漆という素材をより身近に感じられるよう、また、1つのものを10年や20年という長い間でも使い続けたいと思えるようなお弁当箱を提案する。

デザインについて

- ・乾漆技法の特長でもある曲面を活かし、四季の要素を装飾として取り入れた4種類のお弁当箱を制作
- ・使用する素材 麻布、木(底板のみ)
- ・サイズ 19.5×11×5(cm)

制作工程

- 蓋・身共通 -

- | | | |
|----------------------------|-------------|-----------------|
| 1. 模型による原型の検討(スタイロフォームを使用) | | |
| 2. 模型をもとに原型の型を制作(粘土、石膏を使用) | | |
| 3. 離型剤を付ける | - 蓋 - | - 身 - |
| 4. 下地付け(2回) | 9. 下地付け(2回) | 9. 底板の制作及び接着 |
| 5. 布着せ | 10. 下塗り | 10. 底板の布着せ・摺りサビ |
| 6. 目摺り | 11. 追いサビ | 11. 蒔地(2回) |
| { 5.6を5回繰り返す } | 12. 中塗り | 12. 下地付け |
| 7. 下地付け | 13. 加飾 | 13. 下塗り |
| 8. 型を外す 原型完成 | 14. 胴摺り・磨き等 | 14. 追いサビ |
| | | 15. 中塗り |
| | | 16. 上塗り |
| | | 17. 摺り漆 |
| | | 18. 胴摺り・磨き等 |



模型による検討



粘土・石膏にて型を制作



布着せ・目摺り



型はずし



底板接着



下地付け



下塗り

考察・感想

今回お弁当箱を制作するのに、授業で学んだ乾漆技法を用いた。この技法によって木では難しい緩やかな曲面を活かした形を表現することができた。デザインを決定するまでに時間がかかってしまったが、スケッチや模型を制作しながら検討を重ねた末、デザインを決定した。

制作においては、最終的な形のもととなる粘土・石膏の型をきれいに制作するのにとても苦労した。また、平らでない曲面を活かしたデザインによって下地付けや研ぎが思うようにいかず難しかった。蓋の曲線のラインもきれいに表現したかったので、特に重点をおいて作業した。

2年間の集大成として、お弁当箱を制作するにあたって改めてものづくりの大変さを感じさせられた。自分の思った通りにはいかないことや、実際にやってみることで良いところや悪いところを発見できること、1つ1つの作業が大切で最後の完成まで影響してくること等、ものづくりだけでなくこれからの人生を生きていく上でとても大切なことを学ぶことができた。短大での2年間を通して学んだことを忘れずに、これからの自分に活かしていきたいと思う。